

天草市五和町二江地区におけるツーリズムの構造の変遷に関する研究

熊本大学 学生会員 〇佐々木大和 熊本大学 正会員 田中尚人

1. はじめに

近年、地方では、少子高齢化や都市部への人口流出が深刻である。また、地域特有の生活環境が失われつつある。

こうした中で、地域の資源を生かし、地域振興を図ろうとする動きが高まっており、その一つにツーリズム⁽¹⁾がある。川崎ら⁽²⁾は、エコツーリズムは、環境保全と観光振興と地域活性化を同時に実現する重要な政策として、その推進が期待される場所であると述べている。このように、ツーリズムは地域の諸課題を解決する手段として期待されているが、観光公害⁽²⁾が懸念される面もある。

ツーリズムの展開に関する研究において、福山ら⁽⁴⁾は、地域内で価値が認識されていなかった未利用地域資源の活用促進プロセスと、その取り組みに連動する観光まちづくりの発展プロセスを、その主体と価値形成に着目して分析した上で、その進展過程や課題を明らかにした。しかし、地域資源の活用プロセスにおける、個人レベルの価値認識に着目した研究は少ない。そこで、本研究では、個人の価値認識に着目して、天草市五和町二江地区における、ツーリズムの構造の変遷を明らかにすることを目的とする。

2. 天草市五和町二江地区の概要

(1) 二江地区の地勢

本研究の対象地である二江地区は、熊本県の南西部、天草市の天草下島の北端に位置している（図-1）。同地区は、有明海の外海との唯一の出入り口である早崎瀬戸に面している。



図-1 研究対象地の略図

(2) 二江地区の生活と生業

二江地区は、耕地には恵まれないが、有明海と外海の交わる捕漁採藻に恵まれた地先をもち、古くから多種多様の漁法による沿岸漁法が盛んに行われてきた。漁場が豊かである反面、有明湾口にあたり潮流も速く、砂浜も発達していないことから、大規模な曳網や敷き網の漁場とはならなかったが、素潜り、鉾突き、一本釣り、延べ縄、刺し網などの地理的自然条件に順応した漁具漁法が引き継がれ、そのことが今日まで漁場を育んでおり、二江漁港は県内有数の規模⁽³⁾を誇る港となっている。

(3) 二江地区におけるイルカウォッチング事業

二江地区周辺の海域は、潮流と起伏に富んだ海底によって、魚類の宝庫となっており、これを餌にしたミナミハンドウイルカが棲みついている。イルカが好むものは鰹や鯖などの青魚やエビなどで、同地区の伝統的な漁法の対象となる魚介類がイルカの餌と競合していなかったことが、この海域にイルカが定住している理由の一つとして考えられている。平成5(1993)年、同地区への移住者が身近に見えるイルカに感動し、地域活性化の方策として、イルカウォッチング (Dolphin Watching, 以下DW と略す) を提案したことをきっかけに、旧五和町の村興し事業の一環としてDW事業が始まった。当初は、漁師たちが観光漁船を操業していたものの、DW事業の認知度が高まるにつれて観光客数も増え、漁船だけでなくクルーズ船を導入する業者や、熊本県上天草市松島町、長崎県南島原市口之津町にもDW業者が現れた。2000年代以降は、修学旅行などの団体客や外国人観光客の利用も見られるなど、今日の天草観光の一助を担っている（図-2）。



図-2 イルカウォッチング事業の観光客数の推移

3. 二江地区におけるイルカウォッチング事業の変遷

(1) 調査手法

DW 事業の変遷を整理するために、インタビュー調査を行った。調査は、二江地区の DW 事業の関係者及び漁業従事者を対象とし、DW 事業の変遷だけでなく、DW 事業と自然環境や文化、経済の 3 側面との関係の変遷についても聞き取った。質問は、①DW 事業に関する現在までの変遷、②DW 事業と二江に関する自然環境の変遷、③DW 事業と二江に関する文化の変遷、④DW 事業と二江に関する経済の変遷、の 4 項目とした。以下にインタビュー調査の対象(表-1)を示す。

表-1 調査対象者

	性別	年齢	所属	日時
A	男	60代	DW事業者	2021/10/25 14:00~15:30
B	男	50代	DW事業者	2021/11/30 9:00~10:00
C	女	40代	DW事業者	2021/11/30 9:00~10:00
D	男	50代	DW事業者	2021/11/30 16:00~17:00
E	男	50代	DW事業者	2021/12/1 10:00~11:00
F	男	40代	天草市役所	2021/12/1 10:00~11:00
G	男	40代	漁業従事者	2021/21/1 11:00~12:00
H	男	50代	漁業従事者	2021/12/2 13:00~14:00
I	男	40代	DW事業者	2021/12/13 9:00~10:00
J	女	60代	DW事業者	2021/12/13 14:00~15:00
K	男	70代	漁業従事者	2021/12/14 13:30~14:15
L	男	20代	漁業従事者	2021/12/14 13:30~14:15
M	男	60代	漁業従事者	2021/12/14 14:30~15:15

調査で得られた音声データは全て IC レコーダーにて録音し、計 589 分の音声データを得た。全て文字起こしを行い、計 122,913 文字のテキストデータを得た。これをもとに、インタビュー調査の整理を行う。

(2) 対象者の特徴

調査において、対象者の属性が多様であったため、本節では各対象者の属性を整理する。

(3) インタビュー調査結果

調査で得られたテキストデータをもとに、各対象者から見た DW 事業の変遷を整理する。

(4) イルカウォッチング事業の変遷

調査で得られた結果をもとに、DW 事業の変遷を年表にまとめた。

4. 地域資源に対する価値認識に関する分析

(1) 地域資源の定義

インタビュー調査により、DW 事業の変遷を整理する中で、個人の地域資源に対する価値認識の変化と相違がみられた。テキストデータより地域資源への価値認識に関

する発言を抽出し、時代ごとに整理を行う。

(2) 時代ごとの価値認識の分析

時代ごとに個人の価値認識について、関係図を用いて分析する予定である。

(3) 価値認識の変化に関する考察

価値認識の変化と相違に関する考察を行う予定である。

5. おわりに

今後の展望として、3章でインタビュー調査により DW 事業に関わりのある個人から見た変遷を明らかにし、4章では、個人レベルの価値認識を分析し、考察を行う予定である。

補注

- (1) “Oxford Advanced learner’s Dictionary of Current English(5th ed)” (Hornby ed.,1995)によると Tourism=the business of providing accommodation and services for people visiting a place と記載されており、筆者は「来訪者のための施設やサービスを提供する事業」と訳した。
- (2) 高坂³⁾によると、観光公害とは、自然関連や観光地の生活環境、日常的な社会・経済活動へのダメージが及ぶ状況であるとしている。
- (3) 熊本県内 103 漁港のうち、第 2 種漁港に登録されている 22 漁港のうちの一つである⁵⁾。

参考文献

- 1) エコツーリズムとは-環境省: (<https://www.env.go.jp/nature/ecotourism/try-ecotourism/about/>), 2021.12.21 参照。
- 2) 川崎興太, 三部和哉: エコツーリズムとエコツーリズム地域推進組織の実態と問題点-エコツーリズム地域推進組織に対するアンケート調査とヒアリング調査の結果を踏まえて-, 都市計画論文集, vol.50, No.1, pp.61-68, 2015.
- 3) 高坂晶子: 求められる観光公害(オーバーツーリズム)への対応-持続可能な観光立国に向けて-, JRI レビュー, Vol.6, No.67, pp.97-127, 2019.
- 4) 福山貴史, 西山徳明: 未利用地域資源の活用による観光まちづくりの発展プロセス-比較分析に基づくインターナル・マーケティングの有効性に着目して-, 都市計画論文集, vol.56, No.3, pp.1231-1238, 2021.
- 5) 熊本県の水産-熊本県ホームページ: (<https://www.pref.kumamoto.jp/uploaded/attachment/143811.pdf>), 2022.1.3 参照。